

第3回 諫早市総合計画審議会 会議記録

日 時：平成27年7月30日（木）
午後1時30分～3時00分
場 所：諫早市役所5階 大会議室

《 会 議 次 第 》

- 1 開会（進行：政策振興部次長）
- 2 会長あいさつ（黒田会長）
- 3 議題（進行：黒田会長）
 - （1）諫早市総合計画の体系図（案）について
 - ・将来像を実現するための政策施策体系図（案）事務局から別添資料により説明
 - （2）意見交換
- 4 その他
 - ・まちづくり懇談会配付資料について事務局から別添資料により説明
- 5 閉会

<意見交換>要旨

(会長)

皆さん、こんにちは。委員の皆様には、大変お忙しい中にお集まりいただきまして、ありがとうございます。今回でこの会議も3回目になりますが、本日は合同会議ではなく総合戦略と時間帯を分けて、それぞれ議論をしていただきたいと思っております。総合計画では前回に引き続き、総合計画の体系図案につきまして、委員の皆様方の御意見をいただき、議論してまいりたいと存じます。皆様の活発な御意見で、本会議が有意義になりますことをお願いいたします。御挨拶といたします。よろしくをお願いいたします。

(事務局)

～配付資料確認～

(会長)

それでは次第に沿って会議を進めていきたいと思っております。まず議題1の諫早市総合計画の体系図(案)の将来都市像につきまして、前回に引き続き御意見等をお願いしたいと思います。その前に事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

～事前送付の資料により、諫早市総合計画審議会にかかる 御意見・御質問事項について説明～

(会長)

ただいま事務局から説明がありましたが、前回の事務局案にこだわらず、他市の状況も参考にしながら、各委員の皆さん方が考える諫早らしさというものを加味し、10年後にどんなまちにしたいのかという御意見等を、積極的に発言をしていただきたいと思っております。今時代は環境も非常に変わっており、これからの10年というのは、諫早市が発展の道を歩むのかどうかという大事な時期でございますので、皆様方の御意見を思う存分ぶつけていただきたいと思っております。短い時間でございますが、よろしく御意見をお願いしたいと思います。

どうぞ何かございませんでしょうか、10年後どんなまちにしたいか。どんなことでも結構ですのでよろしく申し上げます。

(委員)

実は一昨日、長崎の友人と少し電話で話をしていたら、最近の諫早はどうなっているのかと言われました。いや、どうもなっていないだろうと言ったら、長崎から見ているら諫早は沈没している。諫早はどっぷり浸かっているからわからないだろうが、隣のまちはよくテレビには出ている。

企業誘致はしている。諫早もしているのだろうが、目立ち方が全然違うと言われました。単なる話なのですけど、具体的にどうのこうのということではないのですが、何となく諫早の元気がないというのは、住んでいてもそう思います。人口が減っているので、10年後に人口が減ってないまちというのがやはり一番いいのでしょうか、国全体が減っているわけだから、なるべくそれを最小限にとどめるような方法を考えるべきである。総合計画に記載の事業をすべて市がすれば、本当に暮らしやすく、また、子供も育てやすく、どこからでも諫早に住みたくなるようなまちになるのではないかと思います。しかし、相手もいることであり、そうは簡単にいかないのでしょうか。

今説明があった御意見を要望したのは私なのですが、他市の将来都市像を見ると割と具体的に何を考えているかがわかりやすいような文言になっていますよね。その考え方は希望に溢れており、みんなが頑張ってみようかというぐらいのキャッチフレーズになった方がいいのではないかと思います。今の「人が輝く創造都市・諫早」は、どの交差点にもドーンと看板があるのですが、具体的に一体何の創造なのでしょう。例えば、工場を誘致するというような、そういう産業を創造していくということが具体的にあればわかりやすいのでしょうか。実際、パッと見てわかりにくい。だからもう少し具体的なものがあつた方が、皆さんもその気になるのではないかと思います。

それともう一つありまして、私の友人が学童をしているのですが、近隣からやかましいと苦情があると話を聞きました。たった30人ぐらいの学童で、なぜやかましいのか。この人口が減っていくっていう時代に、子供がいて、そういう声が聞こえること自体がいいことではないのか。これだけ子供が減っているという時に、たった30人ぐらいの子供がやかましいので、どうにかしてくれということ自体がおかしいと私は思いました。だから、みんなが同じように思わないと、やはり人口が増えていかないし、子育てもしにくいということになるのではないか。

(会長)

この後の総合戦略でもそのようになるとは思いますが、やはり委員が言われますように、人口が減らないまち、活気のあるまちということになるのではないかと思います。その点について他の皆さん方の意見もどうぞ。

(委員)

先ほど言われていましたが、本当に若い人の人口減少に歯止めをかけなければいけないと思います。それについては、やはり住みやすい環境づくりですか。例えば皆さん言われていましたが、空き家が非常に多いですね。空き家をリフォームしたりしていけばいいのではないかと思います。もう私も年ですから、10年といえどどうなっているかと心の中でいろいろ考えていました。一応、

婦人会の総務ではいろいろ話し合っていますが、例えば今度新幹線が通りますよね。その時に雲仙や佐世保の通過点にならないように、諫早独自のPRをしていかなければいけないと思います。それと、農業や漁業についてはバランスよくなっているようですが、皆さんの声は大型店舗がない、本屋さんもない、だからそれを市に言ってくれということを頼まれましたので、よろしくお願ひしたいと思っております。

(委員)

一番大事なのは経費で、子供を思い育て、経済的にいかに諫早で子供を育てれば安く上がるかということをもっとはっきりさせてもいいのではないかな。この住みやすいとか漠然としたことではなく、諫早で住んで子供を育てれば、本当にあそこはいいよと全国から人が来るような、そういう特別な施策があってもいいのかなと思います。その期間において、特に諫早の場合は高等学校もたくさんあり、大学もある。通学しようと思えばあちこちあるし、県央においては諫早だけではなくて周辺にもあります。しかし居住と子育てのを中心に考えると、いかに安く上がるかということに工夫を凝らしてもいいかなと気がします。

(委員)

先ほどの御意見と一緒にですが、医療機関は諫早市内では充実していると前回報告がありましたが、やはり看護師不足というのは、県内もそうなのですが諫早市もそうです。看護師が子育てをしながら働ける環境づくりを目指しているのですが、前回、多良見町にて近くの保育所に入れないうちがいていこう話があり、日赤病院の看護部長さんから、やはり多良見町はなかなか保育所入れないと話がありましたので、やはり子育てをしながら若い人たちが働ける環境づくりをお願いしたいと思います。

(会長)

やはり子育てしやすい環境づくり、それから経済的に幾らぐらいなのでしょう。私もこのことで少し聞いたことがあるのですが、20代の単身で250万、夫婦で500万以上あれば何とか。これを安定して保障されるということが大事と聞いたことがあります。

(委員)

ハウステンボスがあんな田舎にあり、再生がどんどんできているというのは、あそこがナンバーワンであり、オンリーワンのことを追求してきたからだと思います。やはり世界でナンバーワンの花でもそうですね、イルミネーションでもそうですが、そういうところには田舎でも人が来るわけです。やはり諫早も

そういう意味で、きちんとした何か目標を持ってナンバーワンもしくはオンリーワンにならないとダメだと思います。それで、子育てや住みよいまちというものにおいてもナンバーワンになるためにどうしたらいいか。社会保障というものは将来の安全保障です。だから社会保障が充実しているところには必ず人が来ます。そういうことを考えて、きちんとした目標、数値なんかを立ててやらないといけないと思います。

(委員)

今言われましたように、諫早市には、大村とか長崎のように大都市にあるようなものはありません。だからその分が暮らしにくいということであり、暮らしをよくするための施設も含めて必要であると思います。あと、道路がどうしても渋滞するので、例えば、今の正久寺から道路が伸びるということになっていますが、実際の規格から言えばもっと海岸線に分岐してつくった方がよほどいいと思います。そういう地元の考え方と、行政の考え方の格差が結構あります。

あとは暮らしやすいところと言えば、実際住んでみて諫早は暮らしやすく子育てに優しいと言われますが、外から見たら見た目が優しくないのですよね。例えば、大村が第2子無料ということで、すごくインパクトがありますが、諫早はさらにお金を出して安くなっているのに、大村の方が安いと全国の皆さんは思っていると思います。そういうアピールが足らず、企画力や行動力自体が今までの構造に縛られていており、先ほど言われたように沈没している見方がされているのです。だから、アピールが足らないということと、観光においてもあるものをもっと主張することで、いろいろなことにおいて企画力を磨いてほしいと思います。

(委員)

私はこの「人が輝く創造都市」という言葉がとても大好きで、やはりその地域の中に人が住んで、人が輝いてこそ、まちがとても生きてくると思います。だからその輝きを増すために、どういう政策をしたらいいのかということで、政策を決めていく必要があるのではないかと。また、例えば今度新しく結婚する方に対しても諫早に住めばこういう特典があるとかいうような施策があってもいいのではないかと思います。

一応県央というとても地理的に恵まれたところにあり、どこに行くにも便利などがあるために、逆に素通りされてしまっています。だからそこをどうやって諫早に住まわせるかっていうところが、とても必要かなと思います。それから若い世代だけでなく、やはり人をどうやって生かしていくか。シニア世代もそうだと思います。介護とかが一応今は問題になっていますが、逆にそういうことを受けなくてもいいように健康でいて、シニアの持てる能力をどのように活

かし、更に機会があれば与えるということが、これからの政策の中に必要ではないかなと思っています。ですから、やはり人があってこそ、人が輝いてこそまちが輝くと思います。

それと、やはり動きが遅いかなと。先ほど委員が言ったように、大村は実は国際交流が途中で潰れたのですが、新たに国際交流プラザというのをつくって、人が集まるような拠点として去年から活動し出しました。私ども25年やっていてそういう提案をしても、なかなかそこから動いていかない。もう少し動きが速くなってほしいなというのはあります。だから、大村はとても発信力、広報力があると非常に感じています。

(会長)

先ほどの意見がありましたように、この県央中核都市ということで、いろんな交通の利便性、あるいは行政、国の機関のサービスのもの、行政の支所なんかもとたくさんここは集中しています。いろんなサービスもあるのですが、それを強みに活かし切れてないというような御意見が、多いのではないかと思います。私も「人が輝く創造都市」がもう大好きで、本来これが目標でなくてはいけないと思っています。その反面、人が輝くためには人が集まらないといけない。ですから、人が集まる中核都市というイメージの上で、将来の10年後の諫早がこうあるべきという考えを、どんどん述べていただければと思います。

(委員)

私もそう思います。人が輝くというのは、人が主役で全ての中心になるということであり、その一人一人が輝いて1つのまちをつくっていくということも大事なのですが、地域に住む一人一人が、私がここに存在することが素晴らしいことなのだ、また、ここに住んでいることは素晴らしいことなのだというような自覚を持つことが必要かなと思います。

今から10年経つと、高齢化社会がもっと深刻になりますが、元気なお年寄りには若い人たちのために、あるいは地域のためにその活力と知恵をたくさん出していただきたい。もう年寄りだからもういいよということではなくて、「もっともっとあなたの知恵を活かすところがたくさんあるのですよ、お知恵をくださいませんか」、「若者と一緒になって、子供たちと一緒に、何かができますよ」、「精いっぱい生きようじゃないか、死ぬまで精いっぱい生きましょうよ、そして張り合いのある生き方をしましょうよ、活動をしましょうよ」というようなモーションやアクションを仕掛けるということも大事かなというように気がします。

(会長)

高齢者はあと10年しますと、この団塊の世代が後期高齢者になるのですね。だから1人の老人は、1人の人生の図書館に匹敵すると言われていますが、今委員が言われたように、健康寿命と平均寿命には10歳ぐらいの差があると思うのですが、我が諫早市は健康寿命であり平均寿命であるような形の施策をいかにして打てるかということと、精神面でもやはり高齢者の方が尊厳を持ち、働きがいがあり、生き生きと若い人たちに対してもサービスができ、あるいは自分たちの高齢者同士でも生きがいを感じられるというような社会をつくるのが理想だろうなと思います。

(委員)

福祉の立場からですが、普段の暮らしの中で、誰もが幸せを感じるという社会になれば、それが一番の狙いだと考えて、福祉関係において関わらせていただいているところです。先ほど委員が言われたように、高齢者が役に立つかどうかというのは、自立できるかどうかですね。支援を得る、あるいは介護を受ける、これだけでいくと健全なる福祉の社会にはなりませんよね。私も後期高齢者でして、ここに後期高齢者なのは私だけではないでしょうか。そういう気持ちで私は言わせていただきますが、まずこの組織をつくられた委員のメンバーにまず感謝をしたいですね。

前の10年計画をつくった時は、委員の年齢が多分50～60前後だったと思います。今回は20代の委員からいるのではないですか。私は70代ですからね。そのように広く渡っている。しかも女性の方々が3分の1以上会議に参加されていますね。どちらの会議にしても、戦略の方でしょうか、総合計画にしてもそのように幅広く委員さんを選出されており、これによって話が進められることが非常に素晴らしい。本当に諫早の幸せを考えてあるのだなと感謝するところです。

そこで、この後期高齢者が先ほど出たように、平均寿命がいくら上がっても、文化のレベルは上がりませんね。やはり健康寿命を延ばさなければいけない。そのために私もこの頃つくづく感じますが、健康を維持しながら自分で買い物ができる、あるいは病院にも行けると、こういう状況の時はいいのですが、田舎になりますと病院がないわけですよ。まだ皆さん目は大丈夫ですね。年を取ると白内障に必ずといっていいほどなりますが、田舎に行きますと眼科の病院がありません。眼科の病院は全部が市内中心にあり、車でないと行けないのです。そのようなこともありまして、長崎なんか調べてみたら、やはり医療機関が連携し合って、協力し合って、地域に出かけて行って巡回するようなこともやっている。

あるいは買い物にしても、今は車で買いに行きますが、車がないと店があってもそこまで行けない。やはり年を取ってもたんぱく質が必要なのです。魚や

肉がいたりもします。田舎にいれば野菜は自分でつくります。そういう状況の中ですから、やはり移動巡回でしょうか。図書館の移動バスは田舎にとって非常に好評ですよ。そういう状況でございまして、年寄りが将来買い物にも行けない中、自分で生活をしよう、やってやろうというように、自立力を持ちながらも、困ることが多くなってきます。そこら辺への配慮も、子育てとともにしていただければ、健康寿命も延びていくのではと思います。

(委員)

いろいろ御意見が出ましたが、「人が輝く創造都市・諫早」は今後10年も、引き続きこの考え方をベースとしてもいいのではないかと思っています。そして、諫早は図書館の町と言われておりますが、施設的にも旧町時代にできていた図書館、それから旧市の諫早図書館、西諫早図書館等々もとても充実しています。実はちょうど明日、お隣の大村市内にある小学校の、図書ボランティアの役員の方々が、諫早の図書館をぜひ見学に来たいということで、お見えになることになっています。諫早市内の小学校の学校図書館をご覧になり、それから諫早図書館のバックヤードを見学されて、その後少し情報交換をすることになっているのですが、そういったところも諫早の売りになるのではないかと思います。子供たちが中学校、高校を卒業した後に、県外、市外に進学や就職で出てしまうことが大変多いのですが、そういった中で住みたいまちであるとともに、戻ってきたいまちであればいい。卒業してそのような形で外へ出たとしても、何らかの形で諫早にまた戻ってきたいと思わせるようなまちづくりは、今後やはり進めていく必要があると考えています。

(委員)

将来都市像については、私もこれでいいと思います。ただ、この下の基本目標のように行政的にどういうまちづくりをやるのか、ネットワークをつくるのか。この集落はこれを主体にやっていきますよ、この地域はこのようにやっていきますよというような計画を出さないと、ただみんな一辺倒に公平にやっていくという話では、つながらないと思います。ある地域では都市計画上で規制がかかっていて、その規制がかかってないところをつまみ食いをして、発展していくというような形になっていくと、将来の都市像が明確になってこないと思います。したがって、その行政的な面での都市づくりをどう考えているかは重要ではないかと。そこにお金をいかにつぎ込んで、子供を増やし、雇用も増やしていくというようなことが重要ではないかと思っています。

(委員)

前回は将来都市像という話が出ましたが、普通こういうのを計画する時は、1つの理想的な都市像というものを掲げながらやっていくという少し長期的ス

パンの中での像だと思います。ただ、わかりやすさという意味でいくと、ちょっとわかりづらくあります。今、この基本計画な概要をつくる位置付け的なところを考えると、もしかすると従来のつくり方というよりも、むしろ課題解決型の計画をつくっていくという必要性があるのかもしれない。具体的に言えば、今後10年の計画の中で何が必要とされているかという、最初に出てくるキーワードは、もう人口減少でしかない。その人口減少をやるというスタンスを、どう解決していくかという姿勢を、明確に出していくという必要性はどこか。それが将来の都市像に掲げるのか、そのもう一つ下のところに具体的に掲げるか。御意見の中でもあったように、先ほどナンバーワン、オンリーワンという話もありましたけども、要するに住みやすさが日本一のまちにしていくのか、住みたくなるようなまちにしていくのかというような、より具体的なものをもう少し盛り込むようなものを、基本目標として設定していくことが必要なのかなという気はしています。

最終的には、先ほど委員も言われていましたが、現実的に外へ出ていく若い人たちが、いずれこの諫早に様々な技術とかノウハウを持って、諫早の活性化に関わっていくという仕組みづくりというのをつくっておくとかというの、短期的なスパンの中でやっていく必要性があると思っております。

(会長)

今、具体的な施策の部分、それから都市像という将来ビジョンの2つの意見がずっと挙がっていますが、最終的にはやはりこのビジョンを実現するために、具体的な施策をどうやっていくかということに展開されると思っております。そういう形で、今は両方から挙がっておりますが、意見をどんどん挙げていただきたいと思います。

(委員)

先ほどから素晴らしい意見が出ていますが、同感なところもたくさんあります。子供たちは一旦外に出るのですが、先ほどの御意見みたいにいろんな技術を持って、また諫早に戻ってきても大丈夫という土台が必要で、戻ってきたくも来られないような状況にあったら、それは今の私たちのせいかなと思ったりもします。

あと、小さな子供たちを育てる時に、お年寄りの方の優しい言葉というのが、小さな子供たちの心にすごく伝わっている部分があると思います。昔、私たちが小さい頃までは、おばあちゃんたちと一緒に住んでいて、親が忙しい分、家にいるのは、おばあちゃんと私たちという感じで、そのおばあちゃんたちの言葉を聞きながら大きくなってきました。しかし今の子供たちは、そういう言葉がなかなか入ってこない状況の中で、一生懸命仕事をしている親の背中だけを見て、大きくなってきている子供も多いのではないかと思います。もう少し優

しい気持ちになれ、ゆとりがあるような考え方ができ、また、子供たちが育てられるように、もう少し高齢化社会と子育て世代をうまくマッチングさせたような施策が何かあればいいなと思ったりもします。

(会長)

まったくそのとおりですよ。そういう施策が非常に大事だと思います。

(委員)

実態が私にとってはなかなかのみ込めない状態で、皆さんの本当に素晴らしい意見を聞いて、本当に感心しております。今のところは特別に言えることもないのですが、だからちょっと皆さんの意見を聞きながら、勉強していきたいなと思っておりますので、よろしくお願いします。

(委員)

資料をいただいた中で、10年先の諫早の未来のまちづくりと、そして諫早らしさというところで、ちょっと考えてみました。私の地元はこちらではなく宮崎県の方でして、類似都市にもある延岡市が出身ですが、ここ10年は諫早とエフエムを通して過ごしているのですが、その諫早らしさをというものを考えた時に、諫早はいいものがたくさんあります。いろいろ考えましたが、何でもあります。それがまた全部がバランスよくあり、これはもういい意味でも悪い意味でも、そういった意味で諫早が埋もれているよって言われているのは、全部がある程度は高水準であるのという中で、諫早らしさはこれですという部分に欠けているのかなと思います。そこは、ぜひ長年住まわれている先輩方にもお聞きしたいのですが、皆さんも諫早らしさを1つでも挙げるとしたら何なのか。それが農業なのか。もともとは、やはり農業であるのでしょうか、3つの海に囲まれている非常に珍しい場所でもありますので、漁業をやっている方は漁業が一番だと言うかもしれません。産業の方は産業、工業の方は工業、いろいろやれるのかな。その中で、今後考えていく中でもっと明確に、諫早といえばこれだと見えてわかるころがあればいいのかなと。

類似都市の延岡市の将来像が書いていますが、「市民力・地域力・都市力が躍動する町・延岡」。自分の地元のことを言うのもあれですが、これも抽象的でなかなか目に見えない部分が多過ぎて、わかりづらいと思います。もっと人が見て、住んでいる人が諫早はこんなまちだ、ここを盛り上げていこうと思えるような、何か施策になり得るものがあればいいと感じています。

あと1つ思うのは、諫早に大学があるのは大きいと思います。そこは、これから若い世代も含めて教育という部分で、地元企業への就職や、先につながるような何かしらの流れが、この諫早市内ででき上がれば、市外から大学に来られた方、地元の大学に行っている方々も、そのまま地域の企業に就職できるよ

うな流れができれば一番いいのかなと思います。

(会長)

イメージ、ビジョンづくりというのは、非常に範囲が広く渡るということがありまして、そういった意味でいろんな意見をどんどん出していただいた方がいいとは思いますが。今の委員の中で、本当にこれが諫早らしさというものを1つ言えるとすれば、どなたかこれだっていう方はいらっしゃいますか。

(委員)

今言われたように何でもあるということ、みんな認識する必要があるではないかなと。足りないところがあったにしても、一応揃っているというのが、諫早の素晴らしさだろうという気持ちはあります。足りるに足りないということはない、全くないというのではないだろうと。何でも一応はあるということです。それに気付いていないところが諫早のいいところなのかもしれませんが、そこが諫早の特徴といえれば特徴だろうと思いますが。

ちょっと別のことですが、先ほど委員が言われたいわゆる老人パワーのことですよね。やっぱり手足が動かなくなってくるのはもう間違いないが、そのパワーは失われていくけども、経済力はやはり年寄りが一番あるのですよね。足腰は敵わないが、小銭は持っているというところ。それをいかに活かすかと、老人パワーをいかに若い人たち、あるいは、これからの子育てをする人らに還元していくかという仕掛けが、どうも足りないという気がしています。もっと年寄りを使えと。力はないけど、経済力はあるのだと。他に知恵という力もパワーもあるのだと。とにかく年寄りの良さをどんどん使って、次の世代に、また次の世代に還元すればいいかと。その施策はどうも諫早は足りないなという気がしています。

(会長)

高齢者パワーを、いかにこの社会の力に取り込むかということだと思います。

(委員)

やはり諫早と言ったら、昨日もお話に出たのですが、東京ではお金を持っていないと生活ができないが、諫早ではお金を持たなくても生活ができる。これが一番いいところとちょっと聞ききました。お金のことを言えばそうでしょう。ここ諫早市は、本当に自然に恵まれた美しい都市なのです。美しい日本と言われておりますが、そのお手本が諫早ではないかなと私は思っております。そういう中で、やはり諫早といえば教育・文化都市だと思うのですよ。ある都市ではカジノを興したり、あるいは賭博ですね、そういう事業をやって活気を上げて盛り上げるという考え方もありますが、私は真反対であります。教育のま

ち、やはり日本本来の勤労、勤勉、忍耐力、そして努力、ここら辺が徹底して諫早だと私は思っております。私も教育関係で38年間勤めてきましたから、特にそれを信念にやってきました、どこの地域でも全部回ってきましたからわかりますが、どこの地域も、飯盛にしろ、森山にしろ、小長井にしろ、諫早市立のところで、やっぱりその精神は通っていると、筋金が通っていると思います。教育のまちが諫早だと、私は信念を持っております。文化都市ですよ。

(会長)

ここで10分間休憩を入れたいと思います。後また引き続き皆さん方の意見も尋ねさせていただきたいと思います。なお、皆さんが発言していただいた内容については、スライドに表示してありますので、これに基づいてまた御議論をいただきたいと思います。

(会長)

それでは皆さんお集まりのようでございますので、再開をいたしたいと思っております。

(委員)

いろんな意見をいただきました、もう耳が痛いものもあったのですが、本当にごもつともな意見が多いのですけど。例えばこれを、まちづくりをなぜするのかということになりますと、やはり人が希望を持って生き生きと生きていく、そのためにまちづくりが必要じゃないかと思うのですね。それが今皆さんの言われたことが、全くそうなのだろうと思います。ただ一番足りないというのは、先ほど大型商業施設がないということも言われたのですけど、まさしくそうだと思います。ただ働く場が少ないということがあって、若い人が戻ってこないという面もあるかと思っております。そういうことで、市としても企業誘致をするために産業団地等の開発とか、そういったものやっつけていこうとしているのですが、そういった若い人が諫早に帰ってきて、安心して暮らしができるようなまちづくりをしないとイケないと思います。

そして将来都市像のことですけれども、先ほど委員が言われた人が中心ということで、人が輝くというのは大事なことです。やはり私も人のためにまちづくりをするわけでありまして、人が輝くというのは大事ではないかと思っております。

(会長)

ただ今、お手元に前半の委員の意見をまとめたプリントが回ったと思いますが、この点についていかがでしょうか。また、いろいろまた深めたい御意見等があれば、御発言をいただきたいと思っております。

(委員)

今言われましたけど、私も人が輝くというのが一番だと思います。やはり観光地なんかでも、今はものを見るだけじゃなくて、まちとかおいしい食べ物を食べながら、そのまちに安住している人の姿で観光客は来るそうですね。人が輝かないとどうにもならないと思いますが、やはり諫早に必要なのは、そういうこうやるぞと言うような1つの目標をはっきり示した方がいいと思います。

だから、私は何回も言っていますが、住みやすさ日本一を目指すとか、暮らしやすさ日本一を目指す、その下に人が輝く諫早のまちがあります。そうすれば住んでいる人も、行政の人たちも、10年かかってやるというようになり、いろんな分野から、どこを解決していけばよいかということが具体的に出てくるのではないかと思います。キャッチフレーズですから、どうのこうのということではないが、具体的にそういう目標を出すと、それに向かって一丸となつてやっていくというような気がします。

(会長)

全くそのとおりですよ。1つのビジョンに基づいて、具体的な政策を上げ、それをまたPDCAできちっと押さえていくと。この辺は総合戦略が主な任務になると思いますが、そのように展開をしていかなければいけないと思います。

(委員)

先ほど、諫早は大村より下手だと意見が出ましたが、全くそのとおりだと思います。なぜかという、例えば、スピーディーさがないとやはり物事は先に進みません。日本はお年寄りの施策に関しては、対応が早いなど私は思っています。介護保険の導入から始まっているいろんなことやっていますが、その中でこの子供と年寄りと一緒にいる包括ケアシステムというのを、2年の間にやらないといけないと決まっております。これは、行政が主となってやらないといけないが、全く手つかずの状態です。ところが、佐々町ではほとんどでき上がっていて、大村もどんどん進んでいます。そんなことにもゆっくりしているなという気がします。

医療ビジョンのほうは、今度県から言われて始まるので、県央地区の医療に関しても、また2年間の間につくり上げてくわけです。そういうことで、年寄りもそうですが、もっと進んでないのは子供のことだと思います。子供のその補助にしても、各都市違うのもおかしいので、やはり県全体で奮闘しないといけないのでしょけれど、遅れをとらないように、スピーディーにしていけないといけないと思います。社会保障とか言いますが、ほんとに社会保障をちゃんと早くやらないと、安全保障にならないわけです。それ大事だと思いますし、そのためにさっき委員が言われましたように、産業のことについても、すべてのことについても頑張ってもらわないといけないのですが、やはりスピードを

上げてやってもらいたいと思います。

(会長)

スピーディーさが足りないということですね。具体的な展開。

(委員)

先ほどの福祉のことがありましたが、世界的な常識で言ったら、日本は子供にお金をかけない国と言われるぐらい子供を粗末にしています。それは、今までは家庭での教育力があつたからそれで補ってきましたけど、今はそれが無いのですよね。なくなったからには、それ以上のお金をかけて子供をケアしていかないと、ニートが増えていくという形になりますし、人材確保では保育関係の養成術がないので、ちょっともったいないなと思います。今とにかく保育士さんが足らなく、看護師さんも足らない。一番必要とされている人材がないということなので、そういうところを含めて考えていただきたいです。

もう1つは、将来的に見た時に、お年寄りもだんだん増えていくということですけれども、仕事ができるお年寄りがいても、それが知られていない。だから、ほんとはしてほしいのだけれども、誰に頼んでいいかわからない。ある一例で、テレビで見たのですけれども、私は何ができますということをホームページに登録して、市が集約して、その方に仕事がどんどん回っていくというような形があります。その後その評価が出てくるので、評価が悪いと仕事なくなる。評価がいいと、どんどん仕事が出てくる。そういう人材的なものの発掘も、これから諫早市自体が考えて、働きたいけども働けない人材を発掘していただきたいなと思います。

(会長)

今、主に教育、子育てということについての意見がずっと挙がっております。子育て支援についてはいろいろありますけれども、市民全体で子供をやはり育てていくと。そういうスタンスというのが、やはり必要になってきているというふうに思います。この子育て支援について、何か他にございませんか。

(委員)

先ほど、高齢者はお金持ちという意見がありましたけれども。諫早市でも奨学金という基金といいますか、それで、大学とか高校とかを無利子で行くという制度があります。そういうのをもう少し深く利用し、これを利用すると必ず諫早市に貢献するように戻ってくるとか、今は大学や高校にせよ、すごくお金がかかるので、そういうところを逆に踏まえて、諫早だとかうやってお金を出すけれども、また将来は諫早に戻るという感じで、そういう具体的なことはできないのかなって思ったりしました。

あと、環境を活かすというところで、こどもの城もそうですが、あの自然を活かして遊びたいという子供たちも結構広く集まってきているのですけれども、その中に子育てしている親が、いろんな悩みがあってそこに来たいという、また、相談したいという親も結構多く来ます。その悩みを持つ人たちが、ここで子供たちを育てたいと思えるような、そういう施策といますか、ソフト面のこととか、親にも子供にもどっちにも教育できるようなものができればいいかなと思います。

(会長)

次は、産業の大型店舗というものが挙がっておりますが、これは、非常に意見が2つに分かれるところで、今後も非常にこの会議でも問題になろうかと思えます。大型商業施設がないから、諫早は買い物の楽しみがないという意見も結構挙がっております。この点について皆さん方の御意見はいかがでしょうか。

(委員)

私は大型店が少ないとかいうのが、よくわかりません。何を買いたいのかということではないのかなと。生活する場所にもよると。私は町中に住んでいますので、20メートル、30メートル歩けば、何かの店が必ずあるものだから、そういう不便さは全く感じてないのですが、やっぱり周辺に住んでおられる方にとっては、確かにそれはあるのかなという気はしています。要は、何をかうための店があるのかということで、高級品を考えると、確かに諫早市は少ないと。やはり長崎とかの小金持ちではなく、大金持ちが福岡まで来て金使っているという話も聞きますが、要は、どこにその定義を置くのか。何をどの程度の品物を揃えたものが、どこにどうあれがいいのかということになるのかと。一概に大型店舗が少ない。しかし、大型店舗だけあっても、そこはマーケットだけでは困るわけですから、内容にもよると。品物の内容にもよると思えますので、この問題にとってはこれ以上突っ込んでいろいろ話すのは、私は今のところはちょっと無理かなという気がしています。

(委員)

確かに、何を買いたいかと言われると、何か買いたいのだと思うんですね。例えば洋服であったり、雑貨であったり、様々なものが1か所で、食料品から、洋服から、雑貨から、何から何まで全てが見られるような場所があって、例えば映画も見られたり、書店も備えていたり、一通りその場所ですべてのものが見られるような場所ということでの大型商業施設だと思います。確かに特に若い世代は、子供を育てている時代では、特に車で移動することが多いですし、小さい子供を連れて行きながら、あちこち回って買い物をしないで済むような場を求めるといえるのは、確かに需要としてはあるのではないかなと思います。

周りを見ている、ちょっと洋服を見たくても諫早ではねというのはよく聞く声で、さっき大金持ちが福岡までと言われましたけど、今若い方々は日帰りでも十分行けますので、福岡まで足を延ばしてというようなことでの場を求めるといのは、確かに大きくあるのだなと思います。

(会長)

特に若い世代の方をここに定着してもらおうという意味では、住みやすいまち、あるいは、魅力のあるまちという1つに、そういう視点も必要かなということですね。

(委員)

やはり先ほど言われました大型総合施設ですね。映画が見られるような、いろいろ入った大型複合施設が必要だと思います。それともう1つは、小長井の端っこですけど、太良町に行きますと道の駅があります。そういうのはもう土日は人がいっぱいですので、小長井も日本一のカキがあるのなら、また全ての農業と一緒に道の新駅をつくらなければならないかなと思います。

(委員)

スポーツ関係では長崎県や九州の現状を考えた場合に、大会の開催というのは、非常に諫早を中心として県央を希望されています。県内の方は、高校、高体連というのがありますが、非常に交通の便がよく、宿泊も大体充実しているということなんです。長崎で開催すると県北の方が困りまして、県北でやると、長崎や島原の方が困るということで、県央である大村や諫早が非常に希望されているということです。だから少し枠を広げてでも、九州においても、全国においても。全国の場合は、飛行場が大村にありますから、非常に便利であります。それから、諫早の場合は高速道路ですね。これにより交通の便において、非常に便利だということで、できるだけ諫早あたりで開催してくれないかという1つの要望があるわけです。

私は以前に地域審議会委員というのをさせていただいて、その時も発言はしたのですが、今のような理由で、諫早がスポーツの中心になる可能性と条件は整っているけども、そのためには施設設備を充実しなければいけません。今の選手というのは非常に贅沢なのです。冷暖房付きで。サッカーなんかは、我々の若いころは石ころがあるようなところで運動をしていましたが、今は芝でないとダメと言われます。もう呆れるような感覚の贅沢さを要求しております。そういった意味で、内村記念アリーナを建てる時にも我々も絡んで発言をしていましたが、冷暖房を付けるかどうかというのも1つの審議の対象になったわけです。そういうのを対象にするのはおかしいという発言もありました。今は、先ほど言いましたように、非常にみんな贅沢になってきている。そういう中で、

大きな体育館を建てたけども、冷暖房がないということで、まず除外される場合が多いのです。だから、これからも充実というものを考えた場合には、冷暖房付きとか、鍵が付くとか、いろんな面の条件を整えるように、尽くされた施設というのが望まれてくるということを考えて、スポーツの市・諫早というものも考えていかないといけないと思います。

諫早というのは、県民体育大会において、知事賞を与えようという時に、平等な知事賞を授与させるための条件を考えたことがあります。諫早というのは、長崎と対等にいけるスポーツの市なのです。佐世保とももちろんですけども、長崎市と色々な総合面を考えた場合は、そういう条件を備えているといくことなのです。だから、今後もそういうスポーツ面においては、我々も関心持つていく必要があるのではないかと考えております。

(委員)

私もなかなかわからないとございますけれども、私は諫早市に生まれ、そしてまた育って、地形にも恵まれ、不便なところがないわけですが、感じるところがないわけですね。そういう中で、先ほど話出ました道の駅というのは、確かに前からそういう話が出ています。高来に「ふれあい」ですかね。あそこに1軒あるぐらいで、これをもっと大きいものにすれば、人も寄るのではないかと考えています。

(会長)

道の駅については私も思うのですが、諫早市だけではなく、バックヤードには島原半島もありますし、当然大村もありますので、そういうところを取り込めるような道の駅をつくっていただければ素晴らしいのではないかと考えています。

今挙がりましたいろんな御意見を、次回事務局からまとめていただいて、次回はこのビジョンの審議に入れるようにしていただければと思います。

(委員)

高来町の町営グラウンドなのですが、市内からサッカーの練習に毎週来るのですよ。ということは、施設が足りない。場所が足りないということなのです。あとは、高来町に総合グラウンドを建ててほしいと思います。

(会長)

闊達な御意見ありがとうございました。ただいまこの将来都市像と、将来都市像を実現するための基本目標、ならびに基本施策等を、皆様に御審議をいただいたところでございます。これについて、次回は将来都市像について御審議をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(事務局)

～資料No. 1により、まちづくり懇談会配付資料について説明～

(会長)

以上で、まちづくり懇談会における配布資料についての説明を終わります。ただいまの事務局の説明の中で、何か御質問等がございませんでしょうか。

(委員)

資料1に記載している満足度の下位3項目ですが、1位の商店街の賑わい、2位の就労支援、3位が観光施設と、たくさん情報発信というところですが、これは諫早市の本当の弱点だと思います。だから、今後このことを真剣に考えていかなければ、上位の方を考えても、全く意味のないことではないかと思えます。それで、私が先ほど言いましたように、スポーツ関係、体協関係の代表ということで出ておりますけれども、私はスポーツの関係で全国を回ってきたわけでありまして、その時に常に思うことです。それから、諫早市に私が住み着いて約50年になりますが、スポーツの場合もよくお土産を買って行くわけなのです。もらったり、取り替えるということもあります。それから、私の個人の用事でも諫早のお土産で、何を持っていくかということで、ちょっと戸惑ってしまいます。おこしとかなら有名なのですけども。じゃあ、それをお土産に持っていくと、「あれっ」、これ何だろうかということで、ついつい県内の有名なお土産というものを購入して行くわけなのです。

そういうことで、非常に諫早市にはきつい言葉かもしれませんが、土産の製品が非常に少ないということ。それから、私の知識がないのかもしれませんが、諫早市のまとまった観光製品というものを紹介している場所がほとんどないのです。私が知っている範囲では、商工会議所の1階に一応揃っていて、こんなものがあるのだということで、再認識したわけなのですけど。諫早市の商店街とか、その他のところで、そういう製品を、皆さんの目に見せているところがあるかということ、ほとんどないと思うのです。そういう意味で、宣伝がちょっと足りないというような気がします。あらゆる観光地では、我々が手にとっていろいろな種類から選択していくということで、だんだんその商品が全国的に認知されて行くわけなのですが、諫早の場合はそういう場もないというような感じです。非常にいろいろな関係者の努力不足じゃないかなというふうに常に思っております。諫早を愛するがゆえに、諫早のお土産を買っていきたいけれども、なかなかできない。そういうことで、1つの提案ですが、陸上競技場などの人が集まるところをあります。それから諫早駅や商店街とかいうようなところに、そのようなまとまったものを展示して、情報発信を図っていくというのが、必要じゃないかと思えます。

それから、常に思っているのは、新製品の開発ができないものだろうか。

諫早はこれだということで、もうこれを持っていけば喜んでくれるとか、諫早のものというのを認知してくれるような菓子とか、おこしとか、いろんなものの開発というものも必要ではないかなと思っています。

(会長)

ありがとうございました。それでは、一応皆様方の御意見を8月のまちづくり懇談会にも配布していただきまして、市民の皆さんの御意見を伺うことにしたいと思います。ほかに事務局から何か連絡はございますか。

(事務局)

次回会議の日程でございますが、8月下旬か、9月中旬に予定をしております。調整ができましたら、御連絡をしたいと思います。次回の審議会では、本日いただきました御意見を、事務局のほうで少し整理をさせていただいて、再度御審議をいただくと。それと、総合計画の体系図等につきましても、御審議をお願いする予定にしております。

本日は時間が限られておまして、なかなか意見をたくさんいただくことができませんでしたので、よろしければFAX用紙を入れしておりますので、さらにいろんな御意見を賜ればと思いますので、よろしく願いいたします。

(会長)

はい、ありがとうございました。本日の議事は以上でございます。議事の進行に御協力をいただきまして、誠にありがとうございました。お疲れ様でした。

(事務局)

以上をもちまして、諫早市総合計画審議会を閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。

～閉会～